

マリンスポーツが盛んな土地柄と、魚種の豊富な海が育てたカヤックフィッシングで楽しむ『非日常』の世界。

全国的に広がりを見せるカヤックフィッシング。その中でも私の暮らす神奈川県は、週末ともなると多くのアングラーがカヤックで海に出る、数多くのカヤックフィッシングのバイオニアを有する地域だと思えます。その背景には、元来マリンスポーツが盛んな地域であることが挙げられます。たくさんの人々に海が開放され、サーフィンやヨット、遊漁船など、海を利用した遊びは多岐に渡ります。東に東京湾、西に相模湾、南には三浦半島が広がり、そこにはシーバスをはじめ、アオリイカや真鯛、青物など多数の魚種が季節ごとに姿を見せます。マリンスポーツが盛んな地域に魚種が豊富な海、カヤックフィッシングが早い時期から発展したのも、このような背景があったからなのかも知れません。

さて、そんなカヤックフィッシングの魅力とはなんでしょう？ たくさん魚が釣れること？ 美味しい魚が釣れること？ それとも、苦勞してカヤックを漕いで一匹の魚に出会うことでしょうか？ どれも正解だと思います。しかし、やっぱり一番の醍醐味は、普段の生活を送る陸の上では体験できない数多くの感動が待っているからではないでしょうか。

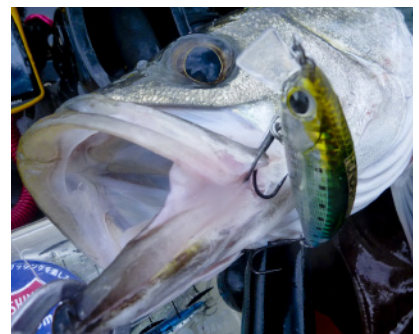
海上から見渡せるシヨアライン。手を伸ばせば届く海面。透き通る水の中に見渡せるベイトの群れ

やボトム、岩礁帯。日常生活を送る陸のすぐ横には、カヤックアングラーでないとも体験できないこれらの非日常の世界が広がります。この感覚を体験できるこそが、カヤックフィッシングの最大の魅力だと感じています。

非日常と言えは極めて特殊な人でないと体験できないような印象があるかもしれません。しかし、普段の生活の中でもいつも隣り合っている海。そこは遠い場所ではなく、身近な場所。カヤックを漕ぎ出すことさえできれば簡単に非日常を体験できるのも素晴らしい点だと思っています。

ひとたび海へ漕ぎ出すと、そこに広がるのは広大なフィールド。動ける範囲は、動力船が番で、次にカヤック、そしてウエーディングといったところでしょうか。今まで培ってきた経験の中からシーバスを探し出すのもよし。魚探やGPSなどの電子機器を装備してシーバスを探すのもよし。仲間とエリアを手分けして探るのもよし。シーバスひとつをとってみても、攻めることのできるフィールドが大きいからこの楽しみ方が数多くあります。

その広大なフィールドの中で、私の住む神奈川県は横浜南部・横須賀にかけてのエリアがシーバスの絶好のフィールドとなっています。一年を通じて



釣果を得ることができませんが、イワシの接岸する春から初夏、産卵を意識した個体が回遊し始める晩秋は数型とも狙えるベストシーズンと言えるでしょう。ポイントとなるエリアも水深2〜10m程度と幅広く、ボトムも砂地から岩礁帯、人工の護岸とその種類は豊富で飽きることはありません。

沖から見える景色は横浜や横須賀の街並、少し南へ目を向ければ観音崎の磯。そして対岸には房総半島の工業地帯から富津以南に広がる緑のエリア。それらの景色は、まさに普段を過す日常。そこから僅か数キロメートル沖には、シーバス釣りを通じて感じることのできる非日常的な世界が広がっています。

日常の中で目にする海。そんな場所も視線が変われば、途端に非日常へと変化します。ただそれを体感するだけではなく、私たちカヤックアングラーには釣りという要素がプラスされ、その楽しみはフィールドの数と魚の種類の分だけ広がりを見せてくれます。

皆さんも、普段の生活と隣り合わせの非日常を、カヤックとタックルを手に探しに出かけてみてはいかがでしょう？